

青森県日本海沿岸におけるスルメイカの資源動向

涌 坪 敏 明 (青森県水産試験場)

兜 森 良 則 (青森県水産試験場)

青森県の日本海側沿岸域における主漁業は、スルメイカ釣漁業であり、例年5月下旬頃から翌年1、2月頃までを漁期としている。

ここでは、スルメイカの沿岸域での漁獲量の経年変化、小泊・下前・鯨ヶ沢及び深浦の主要4漁港における月別水揚量の変動を通して資源動向の推移をおった。また、近年のスルメイカ魚体の変化をみるため銘柄組成の検討を行ったので、その結果を報告する。

1. 漁場と漁業形態

青森県日本海沿岸の主漁場は、これまでの経験から舳作埼南西12マイル沖、大戸瀬埼西7~8マイル沖と権現埼西7~12マイル沖の3か所を中心に形成されることが知られている。このうち、権現埼西方の漁場が最も安定している。また、いずれの漁場も、水深100~200mの陸棚縁辺域が中心になる(十三, 1972)。

スルメイカ漁業は一本釣、定置網、底曳網、ヤリイカ棒受網など各種の漁具を使って行われるが、一本釣以外の漁獲量はきわめて少く、そのほとんどが一本釣によるものである。漁船規模は、各漁港とも小型船が多く、各地先前沖への出漁が一般的である。

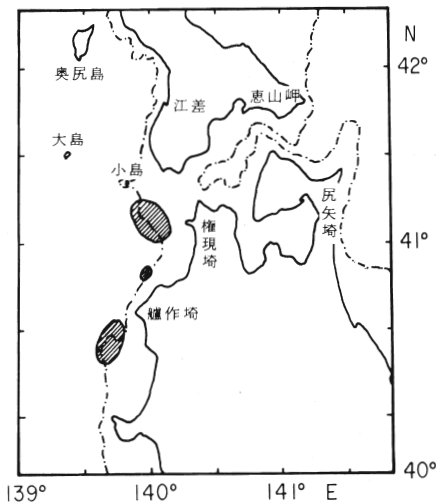


図1 青森県日本海沿岸のスルメイカ漁場 (十三, 1972より)

2. 漁獲量の経年変化

小泊村(小泊・下前港)、鯨ヶ沢町及び深浦町における昭和34年から57年のスルメイカ漁獲量の経年変化を図2に示した。各年を通じて小泊村が最も多く、特に41~51年には格段に多い。その原因としては、沿岸3漁場のうち最も漁場評価の高い権現埼西方の漁場に近いことと、当時スルメイカの魚価が低廉であったために深浦港や鯨ヶ沢港からの出漁船が少かったこ

表1 小泊・下前・鯨ヶ沢及び深浦港におけ

月 項目 年度	5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月		
	隻 数	漁 獲 量	1 隻 当	隻 数	漁 獲 量	1 隻 当	隻 数	漁 獲 量	1 隻 当	隻 数	漁 獲 量	1 隻 当	隻 数	漁 獲 量	1 隻 当	隻 数	漁 獲 量	1 隻 当
1965	—	—	—	1,564	886	0.6	1,883	1,146	0.6	795	228	0.3	356	129	0.4	1,203	556	0.5
1966	288	240	0.8	2,094	2,155	1.0	3,012	2,339	0.8	964	386	0.4	484	150	0.3	286	45	0.2
1967	272	244	0.9	2,238	2,399	1.1	2,290	2,446	1.1	911	564	0.6	765	326	0.4	519	138	0.3
1968	165	195	1.2	1,142	622	0.5	1,774	1,461	0.8	1,997	2,637	1.3	1,589	1,502	0.9	1,081	546	0.5
1969	247	236	1.0	1,115	736	0.7	753	316	0.4	2,164	1,882	0.9	1,699	904	0.5	1,086	342	0.3
1970	56	63	1.1	2,255	1,558	0.7	2,182	1,013	0.5	697	282	0.4	1,425	526	0.4	804	134	0.2
1971	45	29	0.6	1,539	907	0.6	2,511	989	0.4	1,387	636	0.5	2,000	1,004	0.5	416	82	0.2
1972	1,106	652	0.6	3,602	1,753	0.5	2,844	1,539	0.5	444	159	0.4	480	122	0.3	2,033	940	0.5
1973	434	279	0.6	3,098	1,552	0.5	1,862	544	0.3	428	95	0.2	715	189	0.3	1,219	240	0.2
1974	270	98	0.4	1,636	347	0.2	1,597	477	0.3	718	173	0.2	1,640	324	0.2	448	33	0.1
1975	1,311	800	0.6	2,878	1,020	0.4	3,465	973	0.3	1,225	349	0.3	1,352	261	0.2	1,534	220	0.1
1976	422	122	0.3	5,957	1,897	0.3	3,842	1,442	0.4	2,059	614	0.3	1,354	287	0.2	1,225	212	0.2
1977	212	32	0.2	2,764	562	0.2	4,935	810	0.2	1,513	149	0.1	2,053	158	0.1	1,402	133	0.1
1978	175	58	0.3	4,777	881	0.2	3,178	514	0.2	1,991	190	0.1	1,565	152	0.1	884	109	0.1
1979	203	71	0.35	3,091	560	0.18	2,336	527	0.2	952	190	0.2	679	52	0.1	383	179	0.5
1980	—	—	—	1,284	291	0.2	2,190	480	0.2	1,018	260	0.3	1,379	688	0.5	3,078	964	0.3
1981	—	—	—	532	93	0.2	1,199	274	0.2	1,514	353	0.2	1,319	192	0.1	725	107	0.1
1982	10	3	0.3	1,668	436	0.3	5,182	1,187	0.2	1,748	224	0.1	656	52	0.1	1,064	162	0.2

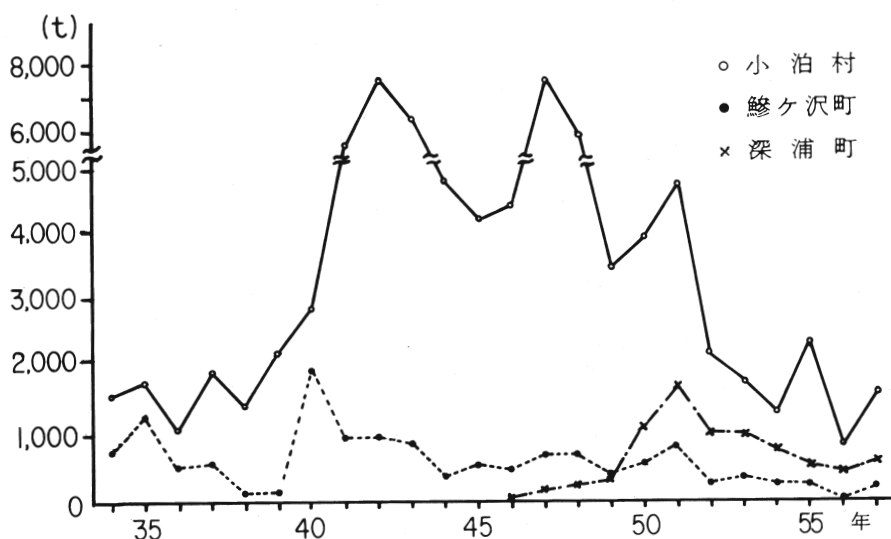


図2 スルメイカ漁獲量の経年変化

る日本海沿岸からのスルメイカ漁獲量

11月			12月			1月			2月			計			初漁日
隻数	漁獲量	1隻当	隻数	漁獲量	1隻当	隻数	漁獲量	1隻当	隻数	漁獲量	1隻当	隻数	漁獲量	1隻当	
100	22	0.2	529	173	0.3	—	—	—	—	—	—	6,434	3,142	0.5	—
591	176	0.3	734	325	0.4	—	—	—	—	—	—	8,453	5,815	0.7	—
557	395	0.7	294	109	0.4	—	—	—	—	—	—	7,846	6,621	0.8	—
504	296	0.6	551	183	0.3	—	—	—	—	—	—	8,803	7,442	0.8	—
277	70	0.3	80	27	0.3	—	—	—	—	—	—	7,421	4,513	0.6	5月15日
323	89	0.3	22	4	0.2	—	—	—	—	—	—	8,530	4,028	0.5	5月11日
152	23	0.2	225	25	0.1	—	—	—	—	—	—	8,746	3,859	0.4	5月15日
696	311	0.5	1,394	535	0.4	—	—	—	—	—	—	13,777	6,348	0.5	5月5日
843	96	0.1	1,319	607	0.5	490	115	0.2	—	—	—	10,408	3,717	0.4	5月15日
112	13	0.1	867	317	0.4	278	76	0.3	—	—	—	7,566	1,857	0.2	5月20日
1,881	442	0.2	2,167	628	0.3	120	24	0.2	—	—	—	15,933	4,717	0.3	5月14日
439	50	0.1	1,073	209	0.2	630	145	0.2	—	—	—	17,001	4,978	0.3	5月21日
1,071	79	0.1	490	31	0.1	570	75	0.1	—	—	—	15,010	2,029	0.1	5月23日
889	95	0.1	284	29	0.1	26	9	0.3	—	—	—	13,769	2,037	0.1	5月23日
120	10	0.1	392	41	0.1	145	28	0.2	—	—	—	8,301	1,658	0.2	5月21日
1,097	253	0.2	692	91	0.1	19	14	0.7	—	—	—	10,757	3,041	0.3	6月8日
220	34	0.2	377	43	0.1	953	364	0.4	50	6	0.1	6,889	1,466	0.2	6月8日
822	124	0.2	1,275	356	0.3	1,066	320	0.3	257	53	0.2	13,748	2,917	0.2	5月25日

とによるものである。46年以降は魚価の上昇もあって深浦港からの出漁船が徐々に多くなり漁獲も次第に増加している。52年以降は3町村とも減少傾向をたどっている。これは、青森県日本海沿岸へのスルメイカの来遊が少なくなったことによるとと思われる。近年の青森県日本海沿岸域全体の漁獲量は2,000トン前後で推移している。

3. 主要4港の月別漁獲量

青森県日本海側のスルメイカ釣漁船の主要根拠地である下前、小泊、鱈ヶ沢及び深浦の4港における沿岸域スルメイカの月別漁獲量を表1、図3に示した。

昭和40年頃は、6～7月あるいは8月が主漁期（通称夏イカと呼ばれる）で、釣漁業が行われる5～12月の総漁獲量の60～70%を占めていた。40年代後半になると、出漁船数が大幅に増加し、それに伴って漁期も12～1月頃まで延びている。漁獲量についても6～7月を中心とする山と、12月を中心とする山の2つが認められる。50～54年に

は、漁期後半の12月頃の漁獲の山がしだいになくなり、再び40年頃の漁獲パターンを示している。

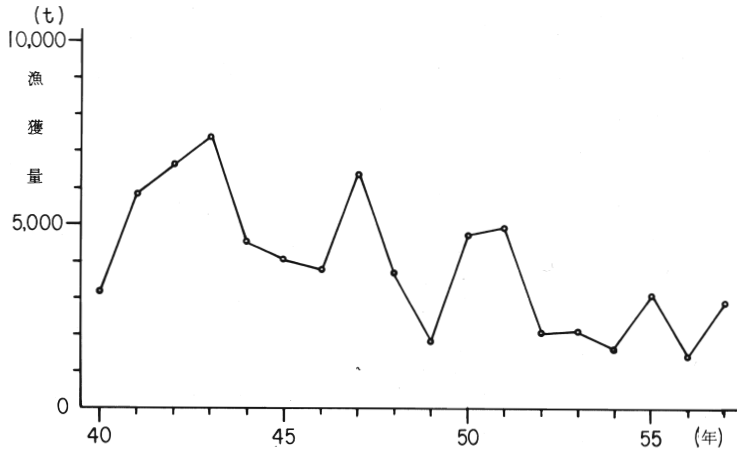


図3 日本海沿岸におけるスルメイカ漁獲量の経年変化

55年は10月に漁獲が集中し、他の年とは若干異なったパターンがみられた。漁期を通じての漁獲量は3,041トンで52～54年の前3か年のそれをかなり上回り、資源回復の一つの兆しではないかとみられ注目された。

55, 56年の初漁日は、例年に比べ1旬ほど遅

れていたが、57年には例年どおり5月下旬に初漁がみられた。漁獲パターンも7月を中心にした“夏イカ”と12～1月を中心にした“冬イカ”の2つの山が形成された。

55年と57年には、それぞれの前年に比べ漁獲の増加がみられているが、これは小泊、下前漁港における増加によっている。これら両港に水揚げする漁船の多くは、権現崎西方漁場を利用しており、同漁場が青森県日本海沿岸漁場のうち最も安定していることの裏づけとみられる。

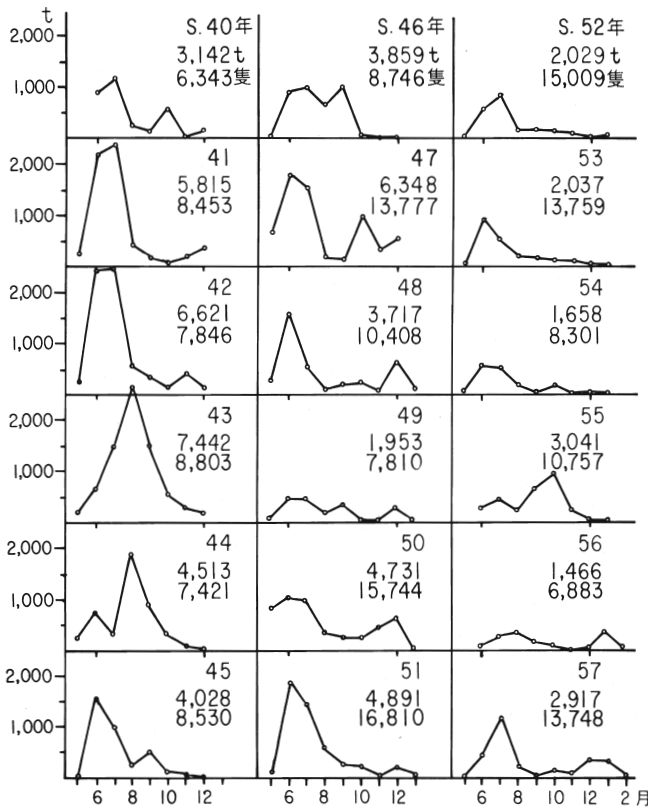


図4 日本海沿岸からのスルメイカ月別水揚量 (小泊・下前・鱒ヶ沢・深浦港)

4. 鱈ヶ沢漁港の入尾数別銘柄組成

近年のスルメイカ魚体の月別推移をみるため、53～57年に鱈ヶ沢港に水揚げされたスルメイカのうち、発泡スチロール魚箱（5kg/箱）の入尾数別の水揚量組成を調べた。階級は20尾以下、21～30尾、31～40尾及び41尾以上の4段階とした。また、比較のため小泊、下前港での入尾数別の尾数組成を調べた。

各階級におけるスルメイカの外套背長と体重範囲は、20尾以下のものでは23.7cm以上、275g以上；21～30尾は21.0～22.2cm，180～220g；31～40尾は19.2～20.0cm，138～

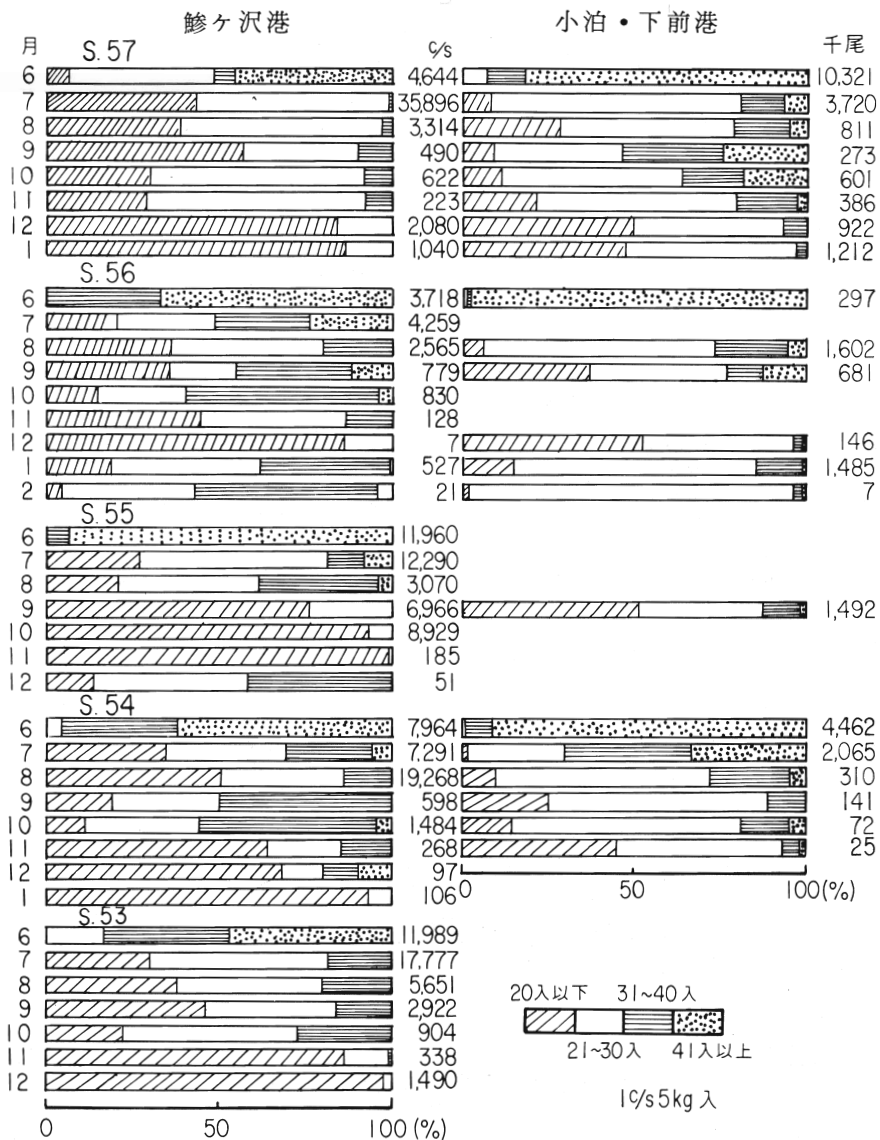


図5 鱈ヶ沢港におけるスルメイカの発泡スチロール魚箱入りの入尾数別水揚量組成 (付、小泊・下前港の入尾数別の尾数組成)

157♀; 41尾以上は18.5cm以下, 122♀以下のものである。

一年を通じての特徴は、漁期初めに小型の割合が多く、6～7月には急に大型の割合が多くなる。その後、10月頃にやや小型の割合が増加し、漁期後半の12～1月頃には再び大型の割合が多くなる傾向がある(55年は当てはまらない)。また、年別では漁獲の少い53、54、56年には30尾入り以下の大型イカの割合が総じて少い傾向もみられる。これらの特徴は、月別漁獲量変動のパターンによく対応しており、漁獲量が多いときは大型魚体の占める割合が高いといえる(55年にも当てはまる)。鯹ヶ沢港における以上の傾向は、小泊、下前港での入尾数別の尾数組成についてもほぼ同様である(図5, 6)。

5. 外套背長と精巣重量の関係の年変化

53～56年の漁期中のスルメイカの外套背長と精巣重量の関係をプロットし、これを図7に示した。

雄の成熟の傾向としては、わずかながら小型で成熟するものの出現がみられるようである。

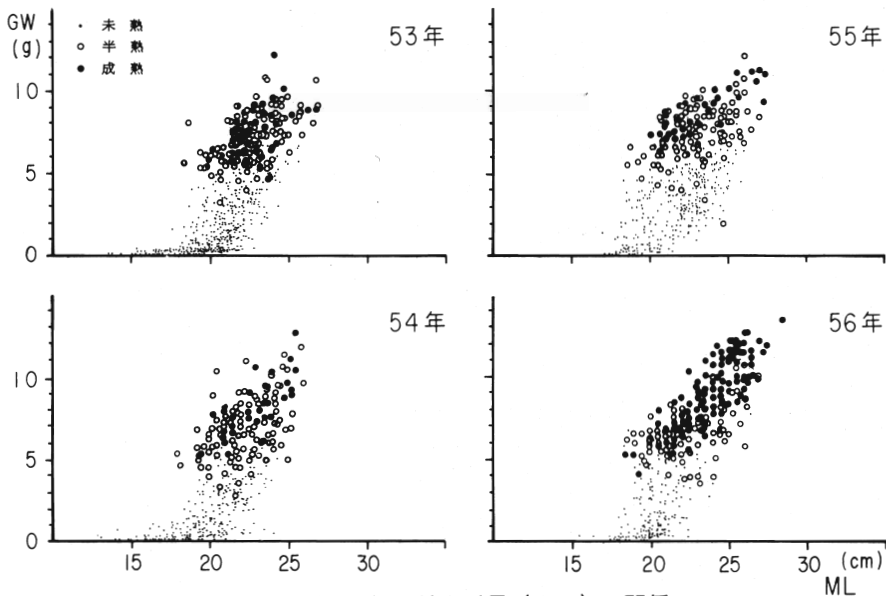


図6 外套背長 (ML) と精巣重量 (GW) の関係

引用文献・資料

十三邦昭 (1972). 青森県日本海沿岸のスルメイカ漁況について. 日本海スルメイカ共同調査報告集: 85～90.

青森県水産試験場 (1976). スルメイカ漁場試験調査資料集.

————— (1977～1982). イカ釣漁場開発調査資料Ⅱ～Ⅶ.